

令和6年度 第2回 富山市上下水道事業経営審議会 会議録

- 1 日 時：令和6年11月7日（木） 午後2時～午後4時10分
- 2 場 所：Toyama Sakura ビル 5階 中会議室
- 3 出席委員：辻会長、森口会長職務代理、上田委員、上野委員、尾畑委員、北岡委員、猿田委員、高橋委員、田中委員、中村委員、西口委員（会長・会長職務代理を除いて50音順）
- 4 事務局：上下水道局長、上下水道局次長、上下水道局次長（技術担当）、上下水道局参事（下水担当）、経営企画課長、契約出納課長、料金課長、給排水サービス課長、水道課長、下水道課長、上下水道施設管理センター所長、流杉浄水場長、浜黒崎浄化センター場長、水橋浄化センター所長、東上下水道サービスセンター所長、西上下水道サービスセンター所長
- 5 報 道：5社（北日本新聞、富山新聞、読売新聞、建設工業新聞、建設新報）

事 務 局	定刻となりましたので、ただ今から、第2回 富山市上下水道事業経営審議会 を開会いたします。 議事に先立ちまして、ご都合により、前回の出席がかなわず、今回初めてご出席いただきます委員をご紹介しますいただきます。 経営審議会の会長職務代理をお受けいただいております、富山大学経済学部長の森口様でございます。 どうぞよろしくお願いいたします。
森口会長職務代理	森口でございます。どうぞよろしくお願いいたします。
事 務 局	当審議会の会議は、富山市上下水道事業経営審議会要綱 第4条第2項の規定により、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができないとされています。 本日は、11名の委員の皆様 全員 にご出席いただいております、会議が有効に開催できることをまずご報告させていただきます。 なお、この会議は公開会議としていますので、ご承知おき願います。 それでは、はじめに、上下水道事業管理者の前田からご挨拶を申し上げます。
上下水道事業管理者	事業管理者の前田でございます。 今朝の富山市の最低気温は8度台。 日中の最高気温も11度台だそうであります。 大変肌寒い気温になりましたが、言ってみれば、ようやく秋らしい季節になったと感じさせてくれます。 ただ、今日は立冬ということで、ようやく訪れた秋も、この後、足早に冬に向かっていくのではないかと、そのような季節になってまいりました。 富山市上水道事業経営審議会は、今年度新たに設置したものでありまして、今年の8月に第1回経営審議会を開催させていただきました。 その審議会では、将来にわたる健全な事業経営と、安全で強靱な上下水道施設

を維持し、持続可能なサービスを提供していくため、本市の上水道事業における適正な水道料金等の設定について、諮問をさせていただいたところであります。

本日の第2回経営審議会では、この諮問事項につきまして、引き続き審議を、行っていただくものであります。社会長はじめ委員の皆様には大変お忙しい中、ご出席をいただきましたことを心より感謝を申し上げたいと思います。

ありがとうございます。

さて、前回の審議会では、人口減少等により水道料金等の減少が続く中にありまして、老朽施設の更新、或いは再構築、それから、人材の確保、育成、その他新たな水質問題への対応など、様々な山積する課題があるという現状につきまして、様々なご意見が交わされたものと考えております。

さらにまた、将来にわたり、安全で良質な上下水道事業を安定的に提供するためには、一層の経営体質の強化ということが必要であり、そのために、現行の料金等の改定ということについての必要性についても、活発なご議論をいただいたものと承知しているところでございます。

とりわけ今年1月1日に発生しました能登半島地震、それから地震からの復興の途上である9月に発生しました豪雨災害によりまして、大規模かつ長期にわたる断水が今なお能登地方では続いております。こういった住民生活に大きな被害が生じている状況を目の当たりにいたしますと、同じような大規模災害がいつどこで、この富山市でも発生してもおかしくないと考えているところであります。

そのため、本市におきましても市民の重要な生活基盤インフラである上下水道施設の耐震化をこれまで以上に一層推進し、強靱化を図ることが、喫緊の課題であるということを改めて強く認識したところでございます。

こうした中、本市上下水道局が、今年9月に上水道事業に関する市民アンケートを実施いたしました。これは市民を対象に実施したアンケートでございます。後程資料についてご説明させていただきますが、このアンケートでは、今後の施設の耐震化や老朽化対策の進め方に関する質問に対しまして、必要な料金改定を行うことで信頼性の高い上下水道システムの構築を確実かつ速やかに進めて欲しいという意見が50.9%と最も多いご意見でありました。

このように市民の皆さんも、やはり強靱な上下水道サービスの構築を求められており、ご意見を十分踏まえまして、今回の経営審議会では、料金の改定規模を判断する際の重要な前提条件として、今後5年間の事業規模、耐震化を中心とした、投資規模を中心テーマとしてご議論いただくことになるものと考えているところでございます。

審議会委員の皆様には大変ご負担をおかけすることになりますが、何卒ご理解をいただき、本日も忌憚のないご意見をいただきたいと思いますと考えておりますので、よろしく願いを申し上げまして、開会の挨拶に代えさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

事 務 局	管理者の前田はここで退席させていただきます。 《上下水道事業管理者退席》
事 務 局	それでは、これより議事に移ります。 ここからの議事進行については、社会長にお願いいたします。
会 長	それでは、これより議事進めます。 それではまず前回審議会の審議内容について事務局から確認をお願いします。
経 営 企 画 課 長	《事務局から「第1回富山市上下水道事業経営審議会の審議内容」を説明》
会 長	よろしいでしょうか。それでは、続きまして事務局から「第2回富山市上下水道事業経営審議会資料」について説明をお願いします。
経 営 企 画 課 長	《事務局から「第2回富山市上下水道事業経営審議会資料」を説明》
会 長	事務局から上下水道局の投資計画等の内容について、説明していただきました。 前回、料金の市民目線の内容（料金体系等）について、質問がありましたが、これについては次回を考えております。 それではただいまのご説明を踏まえまして、皆さんの方からご質問、ご意見受けたいと思います。 まず、A委員からご意見いただけますでしょうか。
A 委 員	40・41 ページ（水道事業財政収支見通し）、44・45 ページ（下水道事業財政週見通し）の表について、まず、内部留保資金は現預金でしょうか。 また、企業債残高はどのように計算しているのか教えてほしいと思います。 加えて、内部留保資金は、令和11年度までの5年間では水道事業は減少していくが、下水道事業では増加していく。令和12年度以降、下水道事業は、減少していくのかどうか。企業債は返済期間30年ということであったので、もう少し長いスパンを示していただくとわかりやすいと感じました。
会 長	事務局説明をお願いします。
経 営 企 画 課 長	まず、内部留保資金につきましては、キャッシュ（現金）であります。積立金等を含めた手元資金であります。 また、企業債残高の計算につきましては、省略されている部分がありわかりにくくなっておりますが、理屈としては前年度の残高から償還金がマイナスになり、次年度に借りる分がプラスされております。

	さらに、下水道事業の内部留保資金の増加につきましては、償還金が大きく減少しているをご説明しましたが、資料の 13 ページ（下水道施設の老朽化・耐震化の状況）をご覧ください。 下水道事業について、管路の布設状況を示した棒グラフがあります。これに充てた企業債は 30 年で償還しており、網掛けとなっている部分（1985～2007 年布設管路）の償還が毎年満了を迎えていることから償還額が減少しております。 それに加え、最近の整備状況を見ていただくと、管路の布設があまりないので、借入額よりも返還額が大きいという状況になっております。 今ほどお話があった長期的な視点につきましては、最近の布設状況や、今後の布設見込みを、今後、財政シミュレーションしていく上では、考慮していく必要があると考えております。
A 委 員	料金の改定を考えるにあたっては、もう少し長期的なところを見据えていただいた方がいいと感じました。 それから、今回の財政収支見通しでは、耐震化の前倒しを行った場合の投資額の影響があまり感じられないがどう考えているか教えてほしいと思います。
会 長	事務局お願いします。
経 営 企 画 課 長	実際に追加投資の影響は、シミュレーションで試算してみないとわからなかった部分であります。 実際に試算してみますと、例えば水道であれば、令和 8 年度から赤字にはなることがわかったが、その先大きく数字は変わらないというところがあります。 また内部留保資金についても、減少はしていくものの、追加投資がいつもの投資の倍になる程ではないので、そこまでは影響が出なかったところです。
A 委 員	そういうことですね。水道事業の財政収支見通しの内部留保資金では、追加通しを前倒しすると令和 11 年度では、約 1 億 6 千万円マイナスになるという話だが、誤差の範囲という理解ですね。
会 長	事務局どうぞ。
上 下 水 道 局 長	もう少し説明します。例えば 40 ページの資料（水道事業の財政収支見通し）ですが、まず収益的収支の収入と支出は現金以外の部分も含めて計上しています。 内部留保資金は、収入の現金と支出の現金を差し引いた部分が影響します。 内部留保資金が減ることは、収益的収支の収入の現金が減って、支出の現金が増え、投資（資本的収支）に使う財源が減ることになります。 よって内部留保資金が減ることは、投資（資本的収支）の財源が不足するといくことになるので、状況的によくないととらえていただきたいと考えております。

A 委 員	例えば 40 ページの資料（水道事業の財政収支見通し）の③（資本的収支の収入）の内訳に借入金があるということですね。
上 下 水 道 局 長	はい。ここに企業債や国の補助金が投資の財源として含まれています。
A 委 員	わかりました。投資に対して借入れを行っており、借入れと返済は企業債残高で確認していくということですね。
上 下 水 道 局 長	そうです。
会 長	はい、ありがとうございます。 30 年償還とのことですので、長期になって少しわかりにくいところがありますね。
A 委 員	そうですね。令和 12 年以降は、1 年ごとではなくてもよいので、5 年や 10 年ごとにバランスシートで示してもらえると、料金パターンの検討もしやすくなると思います。
会 長	事務局いかがですか。
経 営 企 画 課 長	本日の審議会では、そこまでのシミュレーションをしていないところです。 長期的となるとその先の投資の積算を見込まなければならないので、不確実性が高く、難しいかもしれないのですが、その 5 年後のバランスシートの推測は、何らかの形で数字を集めることができれば、どのように出せるかを研究させていただきたいと思います。
会 長	ほかに、いかがですか。B 委員どうぞ。
B 委 員	内部留保資金について確認させていただきたいと思います。これは、一般的な指標はあるのでしょうか。また、事業費の大きさによって変わると思うが、どの程度確保すれば、安定的な事業運営に繋がるのでしょうか。
会 長	事務局お願いします。
上 下 水 道 局 長	まず、最初のご質問の一般的指標につきましては、実はありません。 先ほどご説明させていただきました収益的収支や資本的収支の事業費の大きさにも影響すると思います。 その辺りの設定の仕方は非常に難しいところです。これまでの経験値等を踏ま

経営企画課長	えて、どの程度確保すれば、支出が多い時期や、収入が少ない時期などを踏まえてどの程度確保すれば資金ショートしないかになると考えております。 こちらの方である程度シミュレーションしたものをご説明したいと思います。 今ほど局長が申し上げましたとおり、一概にいくらというのは、事業規模や資金収支の状況等から設定するのはなかなか難しいところでございますが、内部留保資金を幾ら持っていれば健全経営かというところは、非常に重要であり、今後、料金改定を考えるにあたり、重要なポイントになってくると思います。 考え方の1つの案としては、支払いが一番大きい日、水道であれば、1日8億円支出する日があり、それに加え、どれだけ資金を確保するかという考え方もあります。 また、年間通じて、資金残高が一番高いときと一番低いときの差、これが例えば水道ですと16億円ぐらい差があります。 それに加えどれだけ持っておくか、非常時に耐えられる資金確保という考え方であれば、地震等の災害で、富山市のお客様全員が水道料金を支払えなくなった場合、2か月で考えると大体9億円になります。 先ほどお話しした、資金残高の高いときと低いときの差が16億円と給水収益が2ヶ月ない場合の9億円を足して大体25億円という考え方もあります。 参考までに申し上げますと、水道事業会計において、令和5年度決算で内部留保資金は17億円あまりですが、支払い時期の状況によって、他の工業用水道会計から一時的な借り入れを行ったことがあり、実際17億円では若干足りない時期もあったところです。 また、下水道も同じような考え方をすると、資金残高の高いときと低いときの差が33億円であり、2ヶ月の収益が12億円で、あわせて45億円であります。 資金の考え方については、民間企業でもいろいろ考え方はあると思いますので、逆にご意見等いただければ、我々としても非常にありがたいと考えております。
会長	はい。ここは、多分専門家でもなかなか難しいところがあり、2つの議論があると思います。 1つは、まず手元にどのぐらい現金があったらいいのか。市民に迷惑をかけることなく、短期的にも対応してるかという点です。30年償還の話をしましたが、結局、どこかに財政規律を設けなければいけないので、内部留保資金がどのぐらいあるとよいのか。毎年の収支が黒字か赤字かも1つの目安になります。 あと、もう1つは、税金の考え方です。上水道と下水道で全く税金の考え方が違いますので、最終的に一般会計に与える影響が全く違います。通常の市の下水道を考えると、発行してる企業債が非常に大きいケースが多く、一般会計からも負担してもらっています。事務局から説明がありました通り、富山市は大分借金を返してきており、収益が少なくなってきたのは逆に言うと、昔借りた借金を大分返しているというところもあると思います。

上下水道局長	市全体で考えた場合の公営企業も含めた財政健全化がどのぐらいの水準にあるのかに関しては国の示してる指標があるところです。 つまり、長期で考えた場合の市全体の財政の健全性の問題があり、また、上下水道全体で考えた場合や、上水道で考えた場合などに対する内部留保資金の考え方、更に、今回の投資が償還にどの程度影響しているかということについて、次回、もう少しわかりやすく、工夫して説明してもらえると皆さんの理解は得やすいと思います。事務局いかがでしょうか。
会長	ありがとうございます。 十分に今回のご意見を参考として、検討させていただきたいと思います。
C 委 員	それでは、経営においてテクニカルな話になってきています。 C 委員いかがでしょうか。 ご説明ありがとうございました。 収支の見通しについては、今の会長のご指摘を踏まえてということもあると思います。 資料を見ると、基本的には人口が減るので収入は減り、支出は増える。このままでは、やはり水道事業では赤字が継続し、下水道事業も辛うじて黒字である。 そういう試算になっていると思います。 当然、水道事業で令和 8 年度以降赤字が継続するのは、多分、企業債の発行の要件としては、よくないので、料金を見直して収入を上げていくか。 もう 1 つは経営を効率化して、支出や投資をどう編成していくかがポイントになってくると思います。 今後、料金の値上げ幅を決めていく中では、支出を抑え、投資を効率的にして、効率化に努めることを、お示ししていくのは非常に大事だと思います。 こういった手だてをどういった形で打つかというのは、前回、第 1 回の審議会に、包括民間委託などいろいろ効率化の手法をしていることの紹介がありましたが、それに 1 歩踏み込んだ形での効率化、官民連携などの手法を用いて検討する余地があると思いました。 具体的には、上下水道局の方や専門家の方々はよくご存じだと思いますが、国がウォーター P P P という取り組みを推進しています。 今、富山市でも包括委託を導入し、レベル 3 ぐらいまでは実施しておられる。 でも、今後、経営・収支が厳しくなる中では、例えばレベル 3 というものを、管理とか更新の一体型のマネジメントの導入であるとか、もう 1 歩踏み込みコンセッションなどを導入した上での収支の姿みたいなものを検討した上で、将来的な料金値上げっていうのを決めていけるとよいと思います。 時間軸の問題もあると思うが、経営効率化に向けた、例えば官民連携、そういった検討状況等ありましたら紹介や、今後の料金改定に向け、どういうふうに盛

会 長	り込んでいくといった考え方を聞かせていただけるとありがたいと思います。
上 下 水 道 局 長	はい、事務局お願いします。 今、委員が話されたとおり、現在、下水道につきましては、ウォーターP P Pの導入について、検討を進めている最中です。 今年度は、サウンディング調査などをしながら、実現可能性も含め、検討を進めている最中です。 その効果につきましては、先ほど言われた時間軸の関係で、すぐにそれを反映できるかどうかはあると思いますが、そういった民間活力をしっかりと検討していきたいと考えております。 これは下水道事業に限らず水道事業でも言えると思いますので、その検討を踏まえて、結果が出るものについては、事業計画の中にしっかり入れながら、効果をお示ししたいと考えております。
経 営 企 画 課 長	補足させていただきます。今回はこれまでの経営の効率化の取り組みをご説明させていただきました。 加えて、新しい取り組みとして、財源確保や効率化などの点で、どのようなことができるかを検討するため、実は今年の6月から上下水道局内の若手職員が参加するワーキンググループを2つ設置しております。 お客様サービスの向上や、経営の効率化という観点の2つのワーキンググループが、現在、調査検討している最中であり、今後の報告などに基づき実現可能性があるものは次へ取り組みを進め、また、今後の財政計画にも反映させていきたいと考えております。
会 長	前回の審議会で、いろいろと財源確保や効率化などに取り組んでいるという話もありましたが、今回はさらに投資する話を重ね合わせたときにどういう努力の姿が見えるかは非常に重要なことなので、ぜひ検討してください。 その他いかがでしょうか。 では、D委員お願いします。
D 委 員	私は難しい話ではありません。 やっぱりどうしても目を引くのは、8 ページ（水道施設の老朽化・耐震化の状況）と13 ページ（下水道施設の老朽化・耐震化の状況）のグラフで、水道事業では法定耐用年数40年経過するのが677 k m（21.1%）あり、これをそのまま使用し続けるとどうなるのかということがまず1つです。 また、耐震化という言葉が常に出てくるが具体的にどうすることなのか。市民目線に立つとよくわからないと思います。 例えば、「震度7に耐えられる」や「水道管が破損しない」、「施設の壁の継ぎ目

	が落ちない」など、具体的なイメージがあると良い。 加えて、今回 5 年間の投資目標を設定し、前倒しするということですが、その距離は、水道管では 40 年、下水道では 50 年経過したものと比べると、少ないと感じるので、大丈夫なのかと心配になるのが普通の人の感覚で、さらに、その後大きな山が来るのですからなおさらです。 多分人口も減り、労働力も減り、工事業数や工事量などを考慮して、計画が成り立っていると思います。思ったより工事はできないのではないかと心配です。 先ほど A 委員も言われたとおり、次の 5 年間だけでいいのか、長期的に見ないといけないのではと個人的に思います。 広報とやまは、私も読ませていただき、ある程度わかりやすく掲載してありましたが、料金を値上げするときは、この辺を市民にもっと丁寧に説明された方がいいのではないかとというのが私の感想です。答えられるものを答えていただければと思います。
会 長	はい。本質的で重要な質問です。 事務局よろしくお願いします。
上 下 水 道 局 長	まず、耐震化や老朽化を放置すればどうなるかですが、水道施設につきましては、水は常に流して、圧力がかかる状態ですから、経年劣化すると、漏水事故などが発生しやすくなります。 つぎに、耐震化につきましては大体、震度 6 程度に耐えられるような管を布設しております。 よって、今回の能登半島地震では、震度 5 強というこれまで経験したことのない地震でしたが、運よくそれほど被害がありませんでした。 耐震管の布設を進めなければ、能登半島地震のような大きい地震の場合、漏水や断水ということは起こりうると考えられます。 先ほどの資料でも説明しましたが富山県庁横の松川沿いの道路では、地面が横にずれてかなり亀裂が入りましたが、その区間の水道管につきましては、耐震管に布設替えしたおかげで漏水がなかったという実績もありますので、しっかり整備することは、すごく効果があるものと考えております。 一方、下水管につきましては、水道と違い圧力がかかってるわけではなく、流すという状況です。老朽化対策につきましては、カメラを入れ、老朽化が進んでいるところについてのみ、更新や対策をしております。 実際には主にコンクリート管を実施しており、更新を必要とする割合は、10 数パーセントと非常に低い状態になっておりますので、下水道管の投資部分はそれほど大きくなっていないところがあると思います。
上下水道局次長(技術)	次に老朽化が増えていく中で、今後の山を踏まえて、どう進めていくかという

	部分では、ご意見がありましたとおりです。 例えば、平成 17 年合併したときに、富山市には、水道管の業者が約 80 社ありましたが、今年度については 54 社です。 また、建設業全体も含めてですが、水道管の場合は一定程度お客様の飲み水を扱う都合上、様々な資格や高度な技術力を認めた業者さんにのみ、仕事をしていただくという状況にあります。 しかし、やりたいことや、やらなければならないことは、山ほどありますが、そういったことも考慮して、現実的にそれぞれ 1 年間の中で対応できる事業規模を設定させていただいている現状です。 今後、令和 9 年度から 10 年間の事業計画期間を定めた、第 3 次中長期ビジョンを策定予定ですが、まずは 5 年間の現実をきちんと踏まえた計画で、優先しなければならないものを、お客様に見えるように、明確な方向性や目標を説明し、理解いただくよう進めていきたいと考えております。 また、下水道についても同様です。 今の建設業全体で富山市の指名業者は、平成 17 年の合併時から 2 割強減っていると認識しております。 さらに、先ほど局長が申し上げた下水管の中の調査は、高い能力の機材を非常に高度な技術力で行う必要があり、市内や県内では専門に扱っている業者が非常に少ないので、年間に実施できる業務に限界があり、水道同様に考慮させていただいた計画としているという状況です。
D 委 員	再度、確認します。水道管は 40 年経過しても地震が起こらなければ、ほぼ大丈夫なんですね。
上下水道局次長(技術)	そうです。富山市においては、現在、主にダクタイル鋳鉄管という鉄の管と、大沢野地域などの山間地では、塩化ビニール管、それと鋼管の主に 3 種類が、埋設されています。その中で、ダクタイル鋳鉄管と言われるものは、40 年過ぎても一部残存しており、管体自体に大きな損傷があることはありませんが、地震に対しては非常に脆弱であります 平成 16 年の中部地震から、耐震化ということは強く叫ばれるようになり、その後の中部沖や熊本地震では、通常の管は被災する一方で、耐震管については被災していない状況があり、耐震化に全国どの事業者も努めているところであります。 1 つの例として、平成 17 年の合併時には、富山市では年間に 250 件ぐらいの漏水事故によって、一部の地域で断水をして、お客様にご迷惑かけながら修繕するといったようなことを行っており、直近の令和 4 年では 90 件あまりです（令和 5 年は地震で少し増加）。 つまり、耐震化を含めて更新をしていけば、お客様にご迷惑かけるということとはなくなっていくので、水道の供給に影響はないものの、塩化ビニール管を中心に弱いものから優先的に更新をしていかなければならないと考えております。

D	委 員	耐震化というのは震度 6 に耐えられるものに変えていくということですね。
上下水道局次長(技術)		そうです。中越地震を含め、それ以上の地震でも被災していないとした当時所管の厚生労働省の報告や資料等の検証結果より、耐震化の推進に努めさせていただいております。
D	委 員	導水管や送水管は、かなり重要な施設だと思うが、耐震化が遅れているのはなぜなのでしょう。
上下水道局次長(技術)		現状、富山市は平成 29 年度から令和 8 年度までを事業計画期間とする第 2 次中长期ビジョンという計画期間にあります。 その中では、万一地震等で被災し、水が供給できなくなったときに、まず、市内にある配水池から避難所まで水を供給できることを最優先に計画することとしております。 水道管は、ご質問のあった導水管と送水管、もう一つ配水管の 3 種類あり、第 2 次中长期ビジョンでは配水池から避難所までをつなぐ配水幹線(配水管の幹線)を優先しております。 配水幹線については、平成 17 年の合併時に 40%もなかった耐震率が令和 5 年度末で 73%まで、耐震化が向上しております。 しかし、今回の能登半島地震では、復旧までが非常に長期化しており、配水池に溜まっている水だけでは、長期に水を供給できないことから、配水池に水を繋ぐ導水管や送水管についても、耐震化を急ぐこととし、今後 5 年間の中で、地域の中でも大きく重要な浄水場の導水管と送水管に着手、前倒しすることを考えさせていただいたところです。
D	委 員	ありがとうございました。 料金改定するときのポイントとなるような話と思い、質問させていただきました。多分、市民の皆さんはなぜするのかが、なかなか経営状況だけでは、わからないと思うので、そういう設備更新が必要だということを訴えることが必要なのだと思いますので、そこをしっかりと答えるようにしていただきたいと思います。よろしくお願いします。
会	長	ありがとうございます それでは、その他にいかがでしょうか。 はい。E 委員お願いします。
E	委 員	今のお話を伺い、能登半島地震で気になったのでお聞きします。 仮に、同等規模の地震が発生し、流杉浄水場が壊れたら、他から水を供給する

上下水道局次長(技術)	計画などはあるでしょうか。例えば常願寺川で大氾濫が起き、堤防を乗り越え、飲み込まれたなどの大災害の場合です。 まず、今話された流杉浄水場は常願寺川の表流水を水源としてますが、大もとは有峰湖のダムに溜まってる水を、電力会社において水力発電された後、農業用水や上水道事業に使う水道水の水源として使わせていただいているものです。 有峰ダムを含めて、流杉浄水場本体もすべて耐震化の工事を完了している部分になっておりますので、今言われるようなことが万一起きたら、水源がありませんので、水道水をつくることはできませんが、それがないよう、それぞれ事業者で対策を講じているところです。 流杉浄水場は、阪神淡路大震災を機に、10 年以上かけて、平成 21 年に耐震化工事を終えて今の新しい浄水施設を作っており、それが稼働しないということはないと思いますが、水源がない場合は、今話されたように、供給ができないということになります。 その場合には、ほかの地域から供給する手立てがあります。 流杉浄水場から供給する地域以外の大沢野地域や、婦中地域、八尾地域は深井戸から供給しております。 深井戸は、東日本大震災等を含め、施設は被災することはある（例えば津波によって塩害などはある）が、地震では、通常通り使えるので、大沢野地域や婦中地域とは水道管の連絡管を整備しており、量は潤沢ではないにしても、最低限、飲み水等で使っていただけるような施設の整備は行われており、今後も整備していくこととなります。
E 委 員	もう一点、下水の終末処理場の件で、経営効率化や将来にわたり工夫していかなければならないということで、例えば、個人的に思うが、大山地域の熊野川沿いにある終末処理場と大沢野の新村地区の終末処理場は、直線距離 2 キロぐらいですが、川を渡る問題はあるが、今後人口も減るので、終末処理場を 1 か所にまとめることや、蜷川から黒崎線をとって終末処理場へまわすなど、今より効率化ができるのではないかとと思うがいかがでしょうか。
上下水道局長	言われたとおりで、今後、処理施設の統廃合も進めることとなると思います。 今言われました処理場の他にも、例えば、浜黒崎浄化センターと水橋浄化センターをどうするかともあります。 その他にも、公共下水道と農業集落排水事業（市長部局の農林水産部で整備）の施設を公共下水道に接続するなど、いろいろ効率化の検討を進めております。 委員が言われた大沢野と大山の終末処理場の統廃合ということも、将来的には検討する必要があると考えております。
E 委 員	よろしくお願いします。

会 長	ありがとうございます。 はい。F 委員お願いします。
F 委 員	アンケート調査結果の資料の 5 ページで「問 9 市民サービスや上下水道局に期待することについて」特に注目したのは、「検針や料金の情報をスマートフォン等インターネットで確認できるようにしてほしい」についてで、自分もいろいろなものがデジタル化していく中で、2 か月に 1 回投函される検針票がデジタル化できないのかと考えていた。長期的に考えるとこれをデジタル化することで検針員の人件費の効率化につながると思えたのが 1 つと。 独立採算制にそこまでこだわる必要があるのかというのがもう 1 つです。 平常時に収支を独立採算で行うというのはもちろん必要ですが、一時的に緊急時、インフラに関して言えば税金を投入することは、これもまた市民の理解を得られるのではないのかと思ひまして、独立採算制にどこまでこだわるのか。 そういったところについての見解を伺いたいと思います。 以上です。
会 長	はい。実はナンバー 6 のアンケートの資料等は、この後で説明していただく予定でしたが、ナンバー 6（富山市上下水道事業に対するアンケート調査結果【抜粋】《速報値》）とナンバー 7（広報とやま 10 月 5 日号及び寄せられたメッセージ【抜粋】）を、事務局の方に説明してもらい、それを踏まえて今質問された事項 2 つを答えていただこうと思います。 そして、全体に戻って皆さんからのまた、ご意見をいただこうと思います。 それでは、まず事務局、説明をお願いします。
経 営 企 画 課 長 下 水 道 課 長	《事務局から「富山市上下水道事業に対するアンケート調査結果【抜粋】《速報値》」及び「広報とやま 10 月 5 日号及び寄せられたメッセージ【抜粋】」を説明》
会 長	2 つ質問があったうちの最初の 1 つ（「検針や料金の情報をスマートフォン等インターネットで確認できるようにしてほしい」については、市民がどう考えているかを確認するため返答項目としている。便利になると良いという意見もあると考えている。）は、答えがあったと思います。 あともう 1 つの独立採算制の質問ですが、市の公式答弁でなくてもよいので、従事している皆さんの個人的な見解でも構いませんので、お答えください。
上 下 水 道 局 長	まさしく富山市の見解というより、独自の見解ということになると思いますが、もともと下水道事業というのは公共事業の位置付けであります。 水道事業というのは公益事業で、もともと目的がちよっと違います。 そして、今年度から水道事業が厚労省から国交省に移管し、上下水道事業が一

		体となりました。 今後、国でも能登半島地震を受けて、水道の公共性というものをどのように、見直されていくかというところは、注視すべきところと思っております。 今回、国では上下一体となったことによって、新たな制度として、先程説明させていただきました上下一体の急所対策など、いろいろ制度が拡充されてきております。 こういった状況を踏まえると、水道事業は公共事業になりつつあると思っております。この経過を踏まえまして、今後、例えば総務省の起債の充当や起債の取扱い、交付税措置の関係などもどう変わってくるのかを注視するとともに、しっかり各事業体からは要望を上げていく必要があると考えております。 来年度に向けての国に対する重点事業要望につきましても、特に水道事業の補助制度の拡充など、富山市として要望してきました。 今後は、水道事業を公共事業の位置付けとして、国や各事業体、市長部局も含めて、認識していただいて制度を変えていただきたいと、こちらとしては願っております。 また、それに必要な活動もしていきたいと考えております。
会	長	まさに今、試行錯誤中で、正解はないと思いますが、個人的な意見としてお話しします。災害対策を、水道料金で行っても、税金で行っても、最終的には、住民負担です。 直接使用する人が支払う料金という形態をとるのか、いろんな形で入ってくる税金で実施するのかという部分が、どのように持続的で費用対効果がある事業ができるかだと思います。 水道料金を見ると、通常の市場原理とは全く違ってしています。多く使用する人が割増で料金を払うシステムになっており、普通の家庭については、なるべく安くなり、多く使う人は高くなります。普通は、多く使う人は市場原理では、単価を安くしますが、より高くなるという工夫をしながら、割と公正公平に資金を調達していることを考えますと、それなりに工夫してるシステムです。上水道と下水道はシステムが異なっており、工夫されております。意外と今のシステムを維持していった方が、住民の皆さんの理解を得やすいのではないかと思います。 事務局としては、資金調達ができるのであればと、なるべく補助金も含めて、調達努力をするというのは、当然の答弁で、そうした中でその設定や可能性も考えながら、このシミュレーションの中で、現実問題、何ができるかを考えていくということだと思います。
F	委 員	ありがとうございました。
会	長	それでは、この話も含めて、全体の話で、ご意見いただけない方からいただきたいと思います。いかがでしょうか。G委員お願いします。

G	委 員	アンケート結果では、安全な水を得たいという、市民の意見が非常に多いということでした。料金の値上げでマイナスのイメージではなく、もっと積極的なプラスのイメージを、この広報とやまのように、更に持ってもらうことが必要と考えます。特に浄水ができなくなると大変なことから、耐震化の理解をもっと深めてもらうことが、大切と思いました。 また、値上げをすることによって、どのぐらい耐震化が進むのかについて、次の議題なのかもしれませんが、そのようなことがわかると良いと思いました。
会	長	事務局どうでしょう。
経 営 企 画 課 長		情報発信につきましては、市民の皆様方に知っていただくという点で、今回、広報とやまにこういった記事を書きましたが、その他にも、上下水道局独自でお知らせできないかということを今検討しており、さらに上乘せして、取り組みを今後進めて参りたいと考えております。 また、今回の追加投資によってどれだけ効果があるのかを市民の理解が進むよう表現することが重要というご意見だと考えておりますので、今後、次の審議会に向けて調整を進めて参りたいと考えております。
会	長	はい。それでは、H委員お願いします。
H	委 員	ナンバー9（財政収支試算における前提条件）の資料にありますように、人口が減少し、中心部はそうではないにしても郊外がかなり減ってきているので、こういった現象をとらえると、値上げはせざるえない。 一方で、耐震化は進めなければならないということなので、値上げは仕方ないと、皆さんは思ってるだろうと思います。今言われたような、いろいろな機会を通して、アピールしていくことが必要だと思います。 一つ、今日の資料の40ページ（財政収支見通し）以降で、投資の前倒しを上下水道事業で64億円となっていますが、ここに補助金等はないのでしょうか、今持ってる市の予算を先に耐震化のために使うという理解でいいですか。
経 営 企 画 課 長		国土交通省からは、耐震化計画作って、取り組みを進めなさいという通知が出ております。 また、国土交通省の方でも、令和7年の概算要求で、急所施設や重要施設に接続する管という部分については、取り組みを強化することから予算要望されているところでもあります。 ただ、今回お示しした財政シミュレーションでは、国の支援措置についての数字は入っておりません。 なぜ入っていないかというと、どういう補助金で、どの程度補助されるのか、

H 委 員	まだ見えてない状況であるからであります。当然それが見えたら、このシミュレーションの方にも反映する予定で考えているところであります。
上下水道局次長(技術)	加えて、別途資料(ナンバー8-2 上下水道施設の耐震化状況の緊急点検結果(概要)でいただいた全国平均に達していない部分の導水管とか送水管は、今後、前倒しすることによって、全国平均並みになるのでしょうか。 ナンバー8-2の資料をご覧ください。取水して浄水施設に繋ぐ導水管と記載されているところに、全国平均が34%、それに対して富山市は19%と記載してありますが、前倒しした場合の5年後は37%まで上がる予定としております。 また、浄水施設から配水池までつなぐ送水管につきましては、全国平均が47%、それに対して富山市は27%と記載してありますが、前倒しした場合の5年後は33%まで上がる予定としており、重要施設に接続する管について、優先順位をつけて実施するものです。 また、導水管と送水管それぞれ全国平均のところに括弧書きしてあると思いますが、導水管の全国平均34%の括弧書きが23%となっております。 34%については、それぞれの水道事業体が、土質や水位、地下水の状況等で、独自に耐震適合かを判断できるという、選択肢の幅を持たせているものです。 23%の括弧書きは、いわゆる厚生労働省が耐震管と認めた性能を有する管を使って、整備されているものとなっております。 富山市はすべて耐震管に更新しておりますので、比較いただくとすれば、導水管は全国平均23%に対して富山市は5年後に37%まで上げたい。送水管は全国平均32%に対して、5年後には33%まで上げたいという目標にしております。
H 委 員	丁寧な説明ありがとうございました。 こういった私たちの安全のために投資していただくことについては、理解するところですが、料金の値上がりは、ぎりぎりのところで賛成してもらえるような方向でお願いしたいと思います。 もう1つ、安全が一番大事で、おいしいのは、たまたまこの富山という地域性だと思いますが、経営を効率化していく上で、委託などで業者が入ることがあるが、富山市上下水道局の体制は、ぜひ持続していただきたい。 私たち市民が安全な水を得るための一番のキーですので、できるところは、業者にお任せしてもいいが、安全の水を提供する最終的チェックのところは、行政にお願いしたいと思いますので、その辺のバランスもしっかりお考えいただいた上での料金体系を構築していけたらと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。以上です。
会 長	事務局いかがですか。

上下水道局次長(技術)	富山県内で、富山市のように、水道管を直すような、いわゆる直営職員を雇用しているのは、現状、富山市だけになりました。 かつては他市でも、直営職員が修繕し、お客様の期待にこたえるということをやってきておりましたけれども、現状は、富山市のみが、そういった職員を雇用しており、今後もしっかりと維持して、皆さんの期待に応えるようにと考えております。
H 委 員 会 長	ありがとうございます。直営が減ってきているのはしょうがないのですが、最終的に、全て外部にするのはよくないという声です。よろしくお願いします。 それでは I 委員どうでしょう。
I 委 員	たくさん説明いただきありがとうございます。 数字が難しいと感じます、先ほどから会長からも「市民にわかりやすい」や「表現や丁寧な説明が必要」とありますが、本当に痛切に感じます。 感想として 3 点、お話をさせていただきたいと思います。 1 つは、数字の整理整頓であります。 多くの資料の説明をしていただき、料金改定をするための説得資料としての数字が出てきたと私は理解してるんですが、このように数字が羅列的に多く出くると、ますます市民が混乱すると感じます。少し市民に対する説明としては、整理整頓する必要があるのではないかと感じます。 理解を得るための数字が出てくることはそれだけ説得力を増すということだと思いますが、もう少し整理整頓する必要がある、それが市民の理解を得るため、大変大切なことだと思います。 2 つ目には、耐震化の遅さということについて、感想を述べます。 日本列島は火山列島でありまして、いつどこで、地震が起きても全く不思議ではないのですが、富山県民の考え方としては、立山があるから大丈夫だとか富山湾があるから大丈夫だという考えを持っていましたが、1 月 1 日の能登半島地震で、その考え方が全く覆されました。 このことから、例えば、9 ページにあります全水道管の耐震化率は、全国平均に比べ高くなっていると、いうふうな叙述がありました。 しかし、説明の中では、富山市の耐震化率の上昇率が 4.56% (H26→R3)、全国は 7.61% (H26→R3) でした。この数字を比較すると、富山市は、自分ごととしての危機感が足りないというふうに見られても、不思議でないと感想として思いました。 3 つ目には、先ほどのアンケートであります、「料金改定を是」とするのが 50.9% という説明があります。しかし、その前提として「独立採算制のもとで経営されてることを知らなかった」が 42%、「上水道事業において経営上の課題があることについて知らなかった」が 56.6% でした。

会 長 上 下 水 道 局 長	この 42%と 56.6%（経営等のことを知らなかった）、並びにそれに基づいて 50.9%（料金改定は是）である。 ここら辺の数字の違いをどう見ていけばいいのかということも 1 つ市民の理解を得るための必要なことじゃないかなと思います。以上です。 事務局お願いします。 貴重なご意見ありがとうございます。 事務局として、なかなか気づかない点であったと思います。 今の 3 点につきまして、市民の方々への説明の仕方や、アンケート内容を精査し、ご意見も踏まえ、しっかり市民の方々にわかりやすい資料の作成につなげたいと考えております。
会 長	ご質問にありました最も住民に適切でわかりやすい資料を作るためには、資料の作り方というより、適切な水準と改善方向を示すことが一番ですので、皆さんにもどうやったら理解を得られやすい資料かどうか知恵を出していただくというよりも、どの程度の水準で何をすれば一番いいのかというところに、長期的な観点からしっかりご意見いただければとおもっていますし、この件ではご意見をいただいていると理解しております。 それでは、最後に J 委員の方からお願いします。
J 委 員	今回、料金改定ということですが、私自身も、やはり水というのは命にかかわることでもありますので、安心安全なものをしっかり提供するということは必要です。それに伴って必要な設備投資、施設更新をしていくことになりまして、必要であれば、料金の値上げをしていくというのは、もちろん必要なことだと考えております。 値上げについては、水道料金の場合、一度値上げすると、おそらくそんなに簡単に次々改定は難しいと思っております。 ガソリンのように、原油価格上昇にあわせ、値上がりするように市場に連動してるわけではありませんので、1 度決めたらおそらく、何年か、10 年ぐらいはなかなか次のステップにいけないというところであるので、やはりどのぐらいの幅にするのかは、合理性を持った見積りでと思っております。 そこで重要なのは、市民の皆さんに納得してもらえるものなのかということやはり大事になってくると思っております。 今回、いろいろ資料を出していただいておりますけれども、基本的にはまず収入に対して支出の方が大きくなっていくので赤字体質になるというところですが、それに伴ってやはり、老朽化に対する設備投資っていうところが必要であり、また、耐震化が急務であるという理解です。 ただ、その投資に関しましては、財政収支見通しの資料について、冒頭で A 委

	員から意見がありましたとおり、あまり変わってるようには見えないところもあると思います。 上下水道事業全体で 64 億円が耐震化のために必要だということを示されておりますが、それによって資金的支出が増えているかという、あまり極端に増えてるわけではない。そのあたりについて、金額を市民にお示ししても「今まで通りやってもできるのではないか」とみられかねないということもあります。 表現については、ほかの委員からも、意見が出ましたが少し工夫することや、金額ではない何か別の市民の皆さんに提供できる価値で、投資の効果がわかるものを盛り込んでいくことができれば、値上げについても説得力を持つと思われる。以上になります。
会 長	今日の急所の問題定義に戻ってきましたが、どうですか改めて事務局の方から今のご質問に対して、現時点で答えられることをお願いします。
上 下 水 道 局 長	なかなか即答は難しいと思いますが、今言われた点を踏まえて、料金改定の根拠を、見える化し、整理していくことになると思います。 確かに 40 ページの企業会計の財政収支見通しの資料に使った数字を見ますと、どうなってるかは、わかりづらいところがあると思います。 仮に今回の資料の企業債残高が増えていくのであれば、企業債が増えていると将来その返済に影響がありますとか、利息の償還にも影響しますということもいえるんですが、そうでもない一面があるので、説明しにくい部分があり、確かに各委員が触れられたとおり、非常に悩ましい部分であると感じております。 今言われた点や I 委員に言われた点も踏まえて、わかりやすく、納得していただけるよう、また、ご説明のポイントをお示しできるようしっかり検討していきたいと考えております。 どうもありがとうございました。
会 長	ありがとうございます。 全体のメッセージ性をどこに求めて、それを支える水準がどのぐらいなのかというのを、今後皆さんのご指導もいただきながらしっかり詰めて議論をしていきたいというふうに思います。 本日のところは、予定の時刻になりました。皆さんよろしいでしょうか。 それでは、本日の議事は以上ということで、委員の皆さんどうもありがとうございました。 それでは、事務局にお返しします。
事 務 局	辻会長 並びに 委員の皆様、ありがとうございました。 これを持ちまして、第 2 回富山市上下水道事業経営審議会を終了いたします。 なお、本日の議事録につきましては、後日、辻会長に内容をご確認いただきま

	して、ホームページに掲載する予定としておりますので、よろしくお願いいたします。 また、次回の審議会は、令和7年2月中下旬頃の開催を予定しております。改めてご案内させていただきます。 本日は、どうもありがとうございました。
--	---